

特集 保育現場の魅力紹介

子どもの笑顔と私の笑顔

共働き家庭が増え、保育所は子どもたちの成長の場としてますます存在が注目されています。子どもたちを見守る保育士は、子どもにとって“第二の家族”。最近是有資格者だけでなく、保育の仕事に興味のある方も保育所で働ける機会が増えています。 ☎子育て支援課 ☎70・5615

市では現在、保育環境の充実を図るため、保育や子育て支援分野の各事業を担うたくさんの人材を必要としています。保育所で働く先生は、子どもの頃から目指していた方やライフスタイルに合わせて働いている方などさ

まざまです。今回は4人の保育士と、保育をサポートする保育補助者にやりがいや子どもたちへの“想い”を聞きました。



子どもと一緒に成長できたら。保育士はすてきな職業です

保育士 竹宮 勝子先生

保育士となって3年目、まだまだ先輩から教えてもらったり、助けてもらうことがたくさんあります。

保育所は0歳から5歳まで、子ども

たちが就学前の長い期間を過ごす場所です。その間、寝返りができた、食べ物を自分で持って食べることができた、跳び箱が跳べるようになったなど、それぞれが成長していく瞬間に立ち会うことができます。それは私にとっても素晴らしい体験、「できたねー!」と、自分のことのようにうれしい気持ちになります。

子ども一人一人に個性があり、魅力があります。その良さを発見し、応援したり、励ましたり…。その子の成長を助けることは、私自身の成長にもつながっています。保育士は他の職業にはないすてきな仕事だと感じます。

受け持つクラス全員の子ともと密にふれあうことが難しい時もありますが、とにかく、一人一人に丁寧に話し掛けるようにしています。そんなときに見せてくれる素直な一面がと

てもかわいいです。

もちろん、大変なことはいっぱいあります。責任も感じます。でも、それよりはるかに大きいものを子どもたちからもらっています。

これからも子どもたちと一緒に成長できる先生になりたい、そう思っています。



就職相談会

市内認可保育所に就職相談ができる機会を秋ごろに予定しています。ライフスタイルにあった働き方をしたい方、一度現場から離れたけれどもう一度働きたい方、これから資格を取得する方、ぜひこの機会を活用してください。詳しくは広報あやせ10月1日号(予定)、市ホームページでお知らせします。

保育士の一日

- 7:30～早朝保育当番、園児登園
- 8:30～クラス別保育
- 11:30～給食
- 12:30～連絡ノート記入や、保育士同士で情報共有、休憩
- 15:00～おやつ
- 16:00～園児降園、延長保育
- 19:00延長保育当番終了 ※シフト勤務制



日々の発見や好奇心。子どもたちと同じ感性を持ち続けたい

保育士 鈴木 総一郎先生

保育士として働いて10年。その間、子どもたちとたくさんの発見や感動を共有してきました。

例えばダンゴムシやトンボを見つけて一緒に驚き、調べたり…。もちろん、子どもたちから教えてもらったこともたくさんあります。

楽しさや面白いことを一緒に感じる。主役は子どもたち、僕は大人として少しだけその前を歩いているだけ。子どもたちが笑ってくれることこそ僕の喜びですし、今後もその姿勢をずっと持ち続けていきたいと思っています。

保育士として得意、不得意は誰でもありますが、大切なのはフォローし合うこと。子どもが好きでありさえすれば誰でも関わることができる仕事だと思います。僕は小学生、3歳、0歳の子どもの父親でもあるので、保護者の方とは同じ立場。日頃のおしゃべりも大切にしています。



毎日がみんなの笑顔に包まれる。そんな保育士でありたい

保育士 野口 貴世先生

短大で資格を取ったのですが、他にやりたいことがあり、長い間保育士としては働いていませんでした。7年前、子育てが終わったのをきっかけに思い切って今の職場に。現在非常勤として夕方3時間ほど勤務しています。

不安や心配もありましたが、実際に働いてみると、子どもたちはかわいし、毎日が楽しい!赤ちゃんは抱っこし放題だし(笑)。一日一回は子どもたちの言動に大爆笑です。

失敗も数々ありますが、子どもたちから「だいじょうぶ!だいじょうぶ!」と逆になぐさめられたり、他の先生から助けられたりしています。もっと早く保育士として働けば良かったなと、つくづく思いますね。

これからも、子どもたちと笑い、先生たちとも笑い、保護者の方とも笑い合う…。たくさんの笑顔に包まれた保育士でいたいと思っています。



子どもたち、保護者に寄り添えるような保育士に

保育士 平山 綾子先生

子どもが小学生になったのをきっかけに、以前働いていた保育所を辞めました。3年半前、再び働き始めたのですが、選んだのはやっぱり保育に関わる仕事でした。

朝8時30分から夕方4時15分まで、非常勤保育士として働いています。子どもの習い事の関係など、この時間帯に働けるのは助かりますね。

日によってさまざまなクラスで子どもたちを見ています。お迎えの時間に「平山先生バイバイ」と、他クラスの子が来てくれたり、卒園時に「先生ありがとう」と子どもや保護者の方から言われたりするの何よりもうれしいですね。

私自身が子育て中のため、保護者の方と同じ目線に立ってお話したり、共感できたりする部分がたくさんあります。仕事、育児、家事と大変なこともありますが、子どもたちの笑顔を見ると吹き飛びます。



子育て支援員活躍中!

子育て支援員とは、保育や子育て支援分野の各事業で働く上で必要となる知識や技能などを修得し、保育をサポートする保育補助者などです。市では、同支援員になるための研修を実施します。あなたも子どもの近くで働いてみませんか。詳細は広報あやせ7月15日号や市ホームページをご覧ください。



保育補助者 柳川 多恵子さん

将来を担う子どもたちを、働きながら育てている方々の役に立てたらと、定年を機に保育所で働き始めました。先生の言葉が理解できないうちにもありますが、子育て支援員研修を受けて子どもの本質を学び、理解できるようになりました。あいさつができなかった子が、ある日「おはようございます」と言ってくれたときには、とてもうれしく幸せな気持ちになりました。

保護者からひとこと

●言葉が話せるようになったころ、数少ない単語の中のひとつが「せんせい」でした。先生のことが大好きです(2歳児/母) ●いつも先生方の笑顔に安心しています。とても恥ずかしがりやであいさつも出ないことを先生に話すと、次の日の朝に声を掛けてくださり、「グユッ」と抱きしめてもらえてうれしかったです(4歳児/母) ●1歳児クラスの時に、自宅と保育園での出来事をやりとりするノートがありました。先生方は大変だと思いますがとても励みになりました(3歳児/母) ●お遊戯会前に子どもが体調を崩した際に「せりふは全部入っていますから本番当日まで休んで大丈夫です」と言われました。親として子どもを信じてあげたい反面、まだ子どもだからと思っていた時だったので、信じる勇気が持てました。本当に感謝しています(卒園児/母)